日本原子力学会 炉物理部会 第 54 回全体会議 議事録

日時： 2021 年 3月 17日（水）12:10-12:50
場所：日本原子力学会 2020 年秋の大会 B ルーム（On Line 開催、Zoom）

令和 2 年度 審議及び報告事項
【審議事項】
1. 令和 2 年度決算について （財務小委員会担当幹事 NFI 山本氏）
資料 54-01 に基づいて本年度の決算が報告され、承認された。本年度の支出は部会賞の副賞のみで、旅費や国際会議参加費補助の支出はなかった。
幹事と学会事務局の連絡では、「本部から部会への配布予算のうち少なくとも 8 割が繰り越し可能で、申請することで部会が利用できる」ということであったが、他部会で「繰り越しができない」という案件があるとのことで、幹事が念のため確認することとなった。

2. 令和 3 年度予算について （財務小委員会担当幹事 NFI 山本氏）
資料 54-02 に基づいて令和 3 年度予算案が説明された。本年度予算案を踏襲する方針であることが説明され、予算案が承認された。
全体会議での議論により、国際会議参加補助については Web Meeting のケースへの支出も可とすることとなった。Web Meeting という形でも国際会議に参加することは学生に有益であり、提案に応じて検討する方向となった。

3. 令和 3 年度運営小委員会について （JAEA 辻本 部会長）
資料 54-03 に基づいて新年度運営小委員会委員案が説明され、異議なく承認された。

【報告事項】
4. FRENDY オンラインセミナー報告 （セミナー小委員会担当幹事 巽氏）
本年度は夏期セミナーが中止となったため、On Line セミナーを提案し、JAEA 多田氏を講師として FRENDY の機能と核データに関する講義が実施されたこと、「炉物理の研究」でこの模様について報告されることが紹介された。

5. 部会企画セッション報告～フォローアップセミナー報告、年会での企画の案内～
（学術交流小委員会担当幹事 テプシス 阿萬氏）
資料 54-05 に基づいて、令和 2 年度秋の大会の企画セッション「福島第一原子力発電所の燃料取り出しに向けた研究開発」で活発な議論が行われ、さらにそのフォローアップセミナーが 10/9 に開催されたこと、また本春の年会で企画セッション「持続可能な原子炉実習教育への新たな取り組み」が開催予定であることが紹介された。

6. 学会事故調提言フォロー対応　(JAEA 辻本部会長)
日本原子力学会では東京電力福島第一原子力発電所事故を受け事故調査報告書と今後への提言をまとめているが、本年は事故後 10 年にあたり、提言に対してのフォロー作業を行った。このため当部会でも運営小委員会中心に提言に対する当部会としての取組の報告を行ったことが紹介された。

7. 第 8 回炉物理専門研究会報告　(京大複合研 卞先生)
資料 54-07 に基づいて 12/2 にリモート開催された第 8 回炉物理専門研究会の様子が紹介された。発表は 12 件で、参加者は 61 名であった。参加者が多かったことから、第 9 回は現地開催と On Line 方式のハイブリッド方式を検討するとのこと。

令和 3 年度 審議及び報告事項
【審議事項】
8. 第 52 回炉物理夏期セミナーの準備　(セミナー小委員会担当幹事　NEL 巽氏)
資料 54-08 に基づき、令和年度の炉物理夏期セミナー計画が案内された。本年度開催に向けて準備されたものを一年延期した形での開催となる。会場は奈良で、大学の都合等にあわせ 8/30-9/1 開催の予定であり、「小型軽水炉における核計算の基礎」をテーマとした講義と演習を行う。演習のため参加者は PC 持ち込む。

9. 令和 3 年度部会企画セッション検討状況(学術交流小委員会担当幹事 東北大 相澤先生)
資料 54-09 に基づき、秋の大会企画セッションの検討状況が報告された。当初核データ部会との合同セッションを考えたが、今秋シグマ委員会の行事を核データ部会が主催することが決まっており、調整が難しく、今秋は当部会単独開催の方向となった。核データ部会は新年度の JENDL-5 公開後に炉物理部会との合同企画等を希望しているとのこと。今秋の企画セッションで提案があれば相澤先生に連絡するように指示があった。

10. もんじゅ跡地試験炉計画への部会としてのコミット(JAEA 辻本部会長)
福井県敦賀市のもんじゅの跡地に国が試験炉を作ることを地元と約束し、文部科学省は 10MWd 級の中性子照射利用を目的としたものを基本線として考えている中で、公募事業に応募した京大、福井大、JAEA がコンソーシアムを作って設計案策定に取り組み始めた。試験炉を建設するという機会は貴重であり、炉物理部会としてもそれにコミットするための検討会を作ることが提案され、了承された。この議論で
・研究だけでなく、教育目的の利用も可能なことにしてほしい、という要望が出た。そのためには概念設計の段階で目的に「研究+教育」を明確に設定しておく必要があるという意見がでた。

・実際に「使う」ことを前提に概念設計・詳細設計に要望を出していく必要があること、また供用期間全体を見越して、単に炉心だけでなく、分析装置等も考慮した提案を行う必要がある、という意見が出された。

【報告事項】

11. 炉物理の研究（部会報）の準備状況　（編集小委員会担当幹事 JAEA 郡司氏）

資料 54-11 に基づき、部会報「炉物理の研究」第 73 号が年度内に刊行されることが紹介された。本年度は国際会議報告等がなかったため、自由投稿等を募集して内容の充実をはかる必要があったことが報告された。

【その他】

12. 臨界安全国際会議 ICNC2023 の日本誘致（JAEA 外池氏）

資料 54-12 に基づき、JAEA 主催、原子力学会炉物理部会及び OECD/NEA 共催で、2023 年 10 月 1 日～10 月 6 日の日程で、仙台国際センターにて臨界安全性国際会議 ICNC2023 開催を計画していることが報告された。

13. RPHA2021（韓国）の準備状況　（学術交流小委員会担当幹事 名大遠藤先生）

日中韓炉物理シンポジウム RPHA について、2/23 に打合せがあり、その結果本年の開催を先送り、2022 年の 9 月か 10 月に韓国で現地開催する方向で進めることになったと報告された。

配布資料

54-1　令和 2 年度　炉物理部会予算及び実績
54-2　令和 3 年度　炉物理部会予算案
54-3　2021 年度(令和 3 年度）炉物理部会運営小委員会委員（案）
54-5　企画セッション報告～フォローアップセミナー報告、年会での企画の案内～
54-7　第 8 回炉物理専門研究会報告
54-8　第 52 回炉物理夏期セミナー開催計画
54-9　令和 3 年秋の大会部会企画セッション検討状況
54-11　編集小委員会活動報告（令和 2 年度）
54-12　臨界安全性国際会議（ICNC 2023）

以上